

2025年度九州歯科大学 総合型選抜小論文試験課題

受験番号	
------	--

「食育」とは、様々な経験を通じて、「食」に関する知識と、バランスの良い「食」を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践できる力を育むことです。

令和5年度厚生労働科学研究費補助金、「食育における歯科口腔保健の推進のための研究」班が作成した、「食育における『歯科口腔保健との協働』実践に向けた手引き」の原文(抜粋)を示します。

以下の文章を読み、既存の食育活動と連携して歯科保健活動からの食育を推進していくために、行政、企業や多職種と協働してどのようなことがしたいか、歯科医療人を目指すあなたの考えを800字以内で述べなさい。

1. 本手引きのねらい

歯科口腔保健の目標は健全な歯・口腔をつくり、健全な食生活が営めるようにすることですので、食育の推進にとって歯科口腔保健は下支えする重要な要素といえます。本手引きは、歯科口腔保健を専門としない市区町村の食育担当者の皆様が歯科口腔保健を食育の各事業の中でどのように反映させれば良いか、記したものです。(後略)

2. 食育において「歯科口腔保健」が必要な理由

(1)「噛めないものがある」など歯科口腔保健上の問題を持つ人は意外に多いです

乳幼児や学童の食育事業では歯科口腔保健の要素が入っているものが多いのですが、成人期以降は忘れられがちのようです。

歯科疾患の二大疾患はむし歯(う蝕)と歯周病ですが、これらが進行しますと歯が失われて咀嚼機能が低下します(図1)。むし歯(う蝕)も歯周病も、変化が自覚されないまま長期的に少しずつ進み、後戻りせずに蓄積するという特徴がやっかいな点です。年齢を重ねた人ほど歯科疾患が蓄積され、咀嚼機能に支障が生じている人が多い状況にあります。このような状態になると、硬い食物を噛めなくなり、食生活(食品選択)の幅が狭まり、栄養摂取バランスも悪くなります(図2)。

図1 「何でもかんで食べることができる人」と「20 歯以上の歯を持つ人」の割合

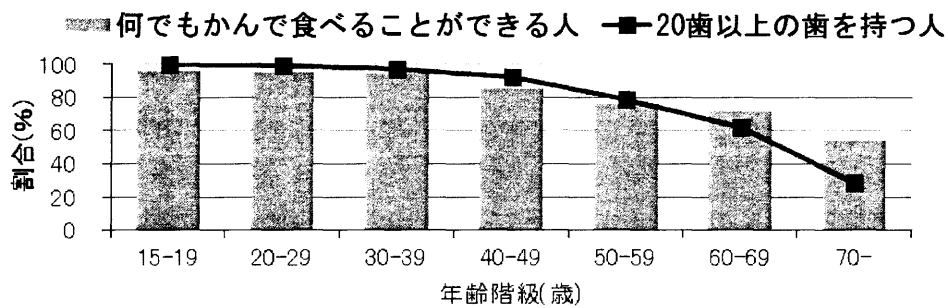
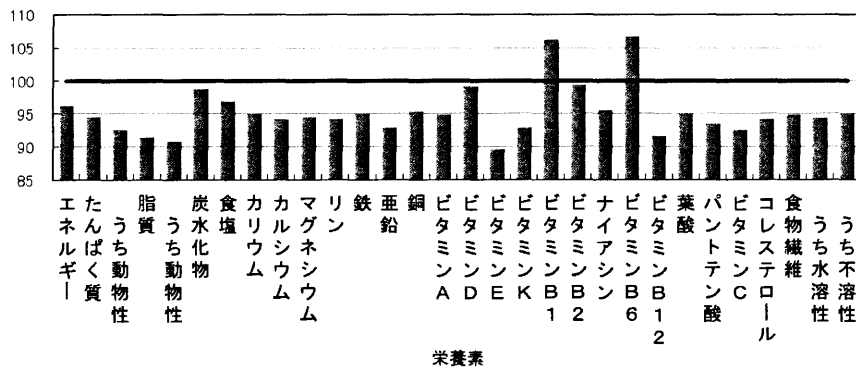


図2 咀嚼に問題がある群の各種栄養素摂取量 (問題のない群の平均値を 100 として算出、40 歳以上)



<出典>厚生労働省 平成 16 年国民健康・栄養調査報告

【出典】「食育における歯科口腔保健の推進のための研究」班. 食育における「歯科口腔保健との協働」実践に向けた手引き. 2024, 2p.